

おぢや 会議所だより

市民版

2022年9月15日発行

〈発行所〉
小千谷商工会議所
小千谷市本町2-1-5
TEL(81)1300 FAX(83)3632
E-mail:mail@ojiyacci.org

OJIYA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY



市民の皆様には商工会議所を知っていただきたいと思い、市民版を発行いたしました。

・特別座談会（2.3P）

「小千谷の未来について」

アンケートに答えて当よう

プレゼントキャンペーン

アンケートにご回答いただいた10様名に
抽選で小千谷の名産品をプレゼント

詳しくは3ページをご覧ください



特別座談会「小千谷の未来について」

たくさんの人で賑わう元気な小千谷になるために、市内の高校生と県外出身者から「小千谷の未来について」をテーマに話し合っていました。

新潟県立小千谷高等学校	横山 紗英さん
新潟県立小千谷西高等学校	横田 明日夢さん
居酒屋 いいこって	石上 康子さん
(株)農プロデュース リッツ	新谷 梨恵子さん
地域おこし協力隊 隊員	阿部 貴志さん
小千谷商工会議所 会頭	小宮山 佳秀
フリーリポーター	西方 正英さん

小千谷の魅力について

西方:初めに、「小千谷の魅力」と言ったら何を思い浮かべますか？

石上:やっぱり食べ物がおいしい！様々な食材にお酒に、小千谷に来て心から「おいしい」と思うようになった気がします。

横田:修学旅行先で県外のお米を食べると「おいしくないな…」って思いますね。

一同:わかります！（笑）

阿部:野菜がどれも立派で新鮮です。やっぱり鮮度の良いものは美味しくて。夏はブルーベリーのシーズンだったんですけど、農作業をしながら摘んで食べたのが一番美味しかったですね。

横山:小千谷はお祭りも魅力的ですよ。この前、昭和52年のお祭りを記録した映像が出てきたんですけど、まるで原宿みたいに人が溢れていたんです。感染症が収束したら観光としてもっと力を入れて、あんな風にたくさんの人で盛り上がりたいですね。

横田:僕は調べものが好きで、小千谷についても調べてみたら、小千谷市が「町」だったころの話だとか、お祭りの歴史に鯉に縮に…と、面白いことがワンサカあったんです。

実は小千谷小学校も、日本の公立小学校で一番歴史の長い小学校なんですよ。小学6年生の時に変遷に関わる場所に石碑を立てて、今もそれはあるけれど、知っている人は少ないんです。二荒様のお祭りだって、独特の獅子舞や巫女爺など、小千谷独特のいいものがたくさんあるので、それらを市内外の多くの人に知ってもらいたいです。今だったらSNSなど、見せ方を工夫して、発信できたらと思います。

新潟県立 小千谷西高等学校

あすむ
横田 明日夢さん

3年生。生徒会長。ボーイスカウト隊員としての活動も行う。



新谷:SNSでの発信は効果的ですよ。うちの会社で野菜詰め合わせの販売をしているんですが、購入したお客さんが箱いっぱいの野菜の写真を投稿をして、また他の人が拡散して…と、どんどん広がって大人気商品になりました。

横山:今は私たちより若い世代もSNSを利用しますよね。若者向けに効果的なツールだと思います。

石上:発信というと、この前女性会で縮のイベントを開催して、その時初めて縮を着たんですけど、着心地が快適で素晴らしくって！扱いも簡単ですし、もっと多くの人に楽しんでほしいです。

西方:牛の角突きだったり縮だったり、いいものはたくさんあるけど、なかなか名物が日常生活に根付いていない印象がありますね。

新谷:若者が見て「あ、こんないいものがあつたんだ」って思ってもらえるような、「今あるものの良さを再認識できる仕組み」が必要だと思います。縮をレンタルしてお出かけできるツアーを組むとか、今あるものでも色々できそうですね。

(株)農プロデュース リッツ

新谷 梨恵子さん

東京出身。「イモ愛」の農カフェきらら経営。農家の支援なども行う。小千谷商工会議所女性会理事・青年部監事。



西方:縮って、今は一部の着慣れた人が楽しむ場合が多いですけど、学生さんなんか気軽に楽しめるような取り組みを行って、もっと名物が生活の一部になってほしいですね。

小千谷の住みやすさについて

西方:「小千谷に住んでくれる人がもっと増えたら」って課題の1つだと思うんですけど、そのためには小千谷が住みやすい環境かどうかが重要ですよ。例えば「子育て」の面だと小千谷ってどうでしょうか？親から見て子育てしてみてもう良かったとか、学生から見てこうだったらよかったな、とかはありましたか？

石上:子育ては、思い出すとただ「楽しかった」かな。お嫁に来る前は孤独を覚悟していたのに、実際は皆優しくって。あの時のウェルカムな雰囲気は今も忘れられないです（笑）都会ほどモノがたくさんあるわけではないけど、不自由は感じませんでしたね。「人の良さ」に助けられてきました。

横田:地域のつながりの強さは感じますね。僕がごく小さい頃、家族が忙しい時は近所の人が預かってくれたり、子供の立場でも不自由はあまり感じませんでした。

阿部:僕の住んでいる地域でも、昔から住み続けている人が多いですね。これまで転勤が多かったのですが、息子たちも馴染んでいるようです。また、地理的にも街の中心部にいろいろなものがコンパクトにまとまっている

ので、そこである程度日常生活が完結できる便利さを感じます。

地域おこし協力隊 隊員

阿部 貴志さん

下越出身。今年4月に神奈川から家族と小千谷へ移住。農業法人で働いている。



横田:ただ、今思うのは「遊ぶところがない」ことで「カラオケやボウリングなど、せめて何かひとつあればいいのに」とクラスメイトとよく話題になります。

新谷:今はなくなってしまったけど、前は色々あったんですよ。そういう企業を誘致するなどして何かできたらいいですね。子どもたちに「雪遊びだけしてろ」と言うわけにもいかないですし。

小宮山:若い人向けのイベントもほぼないんですよ。例えば音楽イベントで人気のバンドを呼ぶにしても、人口減がネックになってしまうんです。

西方:確かに、若い世代が集まれる場ってあまりないですよ。高校生が卒業した後の学校もないせいか、皆市外に出てしまって。そういう人も気軽に集まれる場所があればいいと思います。

小千谷の経済について

西方:小千谷には様々な企業がありますよね。学生の立場から「こんな企業に就職したい」ってイメージはありますか？

横山:若い人の意見も聞き入れてくれる企業が良いですね。古い習慣にとらわれない、「働き方改革」に積極的に取り組む企業なら若者も入りたがるのでは？と思います。

新谷:起業する人ももっと増えたらいいですよ。「こんな会社があつたらいいな」と思った人が、それを自分で作りやすい環境になればいいと思います。「小千谷は何もない」とよく言われるけど、光るものもあると思っています。私がお店を始めた時、周りの皆が応援してくれて。こういう人の温かさって人が多い街では希薄になりがちですよ。それと小千谷って女性の就業率がすごく高いんですよ。女性の力を生かして「起業しやすい街」になってほしいですね。

ハードルになるのは多分「場所」と「お金」だと思います。でも「こうじゃないとダメ」というのはないんですよ。「場所」ならお店を持つことに拘らず間借りしてみるとか。今あ

るものを活かせば色々なことができますよ。

西方:「お金」も、商工会議所で「創業塾」に参加すれば資金面の補助もありますね。

横山:私は「シャッター商店街」が気になります。せっかく商店街があって人が通るのに、昼から閉まっていて…。そこに若者向けの「映える」お店ができれば学生などで賑わうのに、とよく考えますね。

新潟県立 小千谷高等学校

横山 紗英さん

3年生。今年6月まで生徒会長を務めた。



西方:「今あるもの」を使わないのはもったいないですね。様々なハードルを乗り越えるためのステップとして活用してほしいです。

「小千谷に来てもらえる観光」について

西方:観光の面で、「今あるもの」を活かすすれば、例えば鯉に縮にお祭りなど、素晴らしいものもたくさんあるけど、どうしても季節のものなので一年中盛り上がるのは難しいですね。日ごろからあるもので、年間を通して小千谷に人を呼べるものって何かないですかね？

新谷:農業体験はなかなか需要がありますよ。うちの会社では今インターンを一年中受け入れています。「冬の農作業？」って思われるかもしれないんですけど、切り干し大根やお餅など、農家は色々してるんです。この冬もたくさんの方が来ました。「日常」体験を提供して、その日常の中にお祭りや花火などの生活に絡んだ「非日常」があって、そういった「小千谷の暮らし」を知ってもらおう。そういった体験などはウリになると思います。

石上:滞在して日常を体験してもらおうのってすごくいいですね。それと小千谷は宿泊施設が少ないと感じます。せっかく季節のイベントがあっても宿泊は市外だったり。イベントの日にお客様と話していると「宿泊は小千谷じゃないからもう帰らなきゃ」って方もいらっしゃるんですよ。

居酒屋 いいこって

石上 康子さん

東京出身。夫婦で地域密着型の居酒屋「いいこって」を営み、今年で13年目になる。小千谷商工会議所女性会 副会長



阿部:魅力的なイベントが多いのに宿泊施設がないと、なかなか呼ぶのは難しいですね。

石上:最近、来迎寺駅近くに宿泊施設やユニークな飲食店、イベントスペースなどを備え

た施設ができて、「ちょうどいい規模だな」って思ったんですよ。ああいう人口規模に合った施設が小千谷にもあるといいですね。

小宮山:自分で作ってみるのもアリだと思いますよ。しっかりとした「観光資源」があって、だからホテルが必要、と思われるようになれば十分自力で運営できると思います。

西方:宿泊施設は維持が大変ですが、ぜひ盛り上げてほしいですね。

これからの小千谷でやってみたいこと

西方:最後に小千谷で暮らしていく中で「こうなればいいな」「こんなことしてみたいな」ということを教えてください。

★コーディネーター
フリーライター

西方 正英さん

小千谷在住。ラジオ番組のパーソナリティーやライターとして活動中。



阿部:農産物を生かした商品販売をやってみてくださいね。市外のデパートなどで、地域の名前を付けた商品を販売できたらな、と思います。個人的には昔からカフェをやりたいと思っていて、これまでの農業の経験を活かした面白いことをしてみたいです。

石上:「もっと小千谷に飲食店が増えて欲しい」って思わない日はないんですよ。「ライブじゃないの？」と思われるかもしれないけど全然逆で、少なくとも多くてもダメなんです。小千谷は全然足りていなくて。若い人に今の小千谷にないようなユニークな飲食店を出してほしいですね。これは自分の密かな夢なんですけど、自分の店で、家具から何から店ごと作る「手作りの店」をしてみたいです。

新谷:小千谷が「既存の概念にとらわれない、おもしろいことをやっちゃう街」になってほしいです。例えば商店街を高校生に貸して、放課後に部活をするように「お店の運営」をしてもらうとか。フリマも良いし、ダンスやカラオケもいいですね。世代を超えてみんなが楽しく過ごせる街になってほしいです。

横田:子どもたちが「テレビゲームよりすごい！」と思うような小千谷の豊かな自然の魅力を発信できたらいいなと思います。この前バーベキューをしたんですが、その中にいた子どもの一人がずっとゲームをしてるんですよ。ゲームもいいんですけど、そこにのめり込んで人との接触が減るのは寂しいですね。思わずゲームを放り投げちゃう位の魅力をもっと磨いて伝えたいです。

横山:「小千谷」の知名度がもっと上がってほしいです。これから先、もし自分が小千谷から外に出た時、出身を聞かれて「小千谷です」と言った時、「どこにあるの？」じゃなくって「ああ、そこね！」って言ってもらえるようになればいいなと思います。『新潟県の小千谷』って皆がわかるような、もっと知名度が上がればいいな、と思います。

西方:小千谷の知名度を上げるために、SNSでインフルエンサーになるのはどうでしょう？

横山:考えてみます……（笑）

西方:最後に小宮山会頭から総括として一言お願いします。

小千谷商工会議所 会頭

小宮山 佳秀

小宮山会計事務所の所長。平成28年から商工会議所の会頭を務める。



小宮山:皆さん活発な意見をありがとうございました。

学生の思いや女性の活躍、市外から小千谷に来た人の小千谷への思いなど、様々な意見を直にお伺いでき、大変有意義な座談会でした。コロナ禍でどうしても塞ぎがちになってしまいう中、こうして皆さんと前向きな話ができて、こちらも元気になるような心地です。

特産品でも観光資源でも、小千谷の魅力はたくさんあることがわかりました。他にはない特徴をハッキリさせ、皆で魅力を「強み」に高めていきましょう。

ところで、会社も人も、自分の強みは自分ではわからない場合がありますよね。そういう時は今日の座談会のように、周りの人や友達に聞くと良いですね。何でも言い合える友達だったら、自分の強みを的確に言ってくれますから、そういう友達作りにも会議所は役立つと思います。

西方:小千谷の明るい話や、課題も色々ありましたが、今回こうやって皆さんと繋がれたのも何かの縁だと思います。これからもお互い協力して小千谷を盛り上げていきましょう！皆さん今日はありがとうございました。

※当日の座談会は、万全な新型コロナウイルス感染症対策の上で開催いたしました。

※写真撮影時のみ、マスクを外しています。

アンケートに答えて当てる
**プレゼント
キャンペーン**

右のキャンペーン応募フォームよりアンケートにご回答いただいた方の中から **抽選で10名**の方に、**小千谷の名物スイーツ詰め合わせセット**をプレゼントいたします。

※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※掲載する個人情報は、本キャンペーンの景品発送以外には使用しません。
※匿名でのアンケート回答も可能ですが、プレゼント抽選の対象にはなりません。ご了承ください。



◀キャンペーン
応募フォーム

応募締切 10月14日(金)



小千谷商工会議所とは？



小千谷商工会議所は、市内約1,000の事業所を会員に持ち、商工業の発展と地域振興を目的に活動している法人です。

◆主な事業紹介

1. 商工振興に関する事業

小千谷の経済活動を支えるため、地域活性化事業やイベントを行っています。

- ・小千谷うまいもの市
 - ・プレミアム商品券発行事業
 - ・おぢやまちゼミ
 - ・おぢやまつり、おぢや風船一揆への協力
- ほか

▼小千谷うまいもの市



▲プレミアム商品券発行

2. 小規模事業者等支援に関する事業

小千谷商工会議所・中小企業相談所では中小企業、特に小規模事業者の経営改善のお手伝いをしています。

- ・展示会、商談会の出展支援
 - ・金融斡旋
 - ・創業塾
 - ・各種専門家の派遣事業
- ほか

▼創業塾



▲商談展示会

3. 労働・教育・福祉に関する事業

事業所の人材育成支援を積極的に行っています。

- ・新入社員セミナー
- ほか

▼新入社員セミナー



会員以外の一般の方も以下の受講、受検ができます

- ・初級原価計算講習会
- ・初級簿記講習会
- ・日商簿記、日商珠算、P C 等各種検定



▲初級簿記講習会

4. 政策要望活動

地域経済の活性化と発展を目指し、県や市に会員の意見をまとめた要望書の提出などを行っています。

- ・「経済対策に関する要望書」を小千谷市へ提出
 - ・各種政策への支援依頼
 - ・「新潟県の産業政策支援に関する要望書」を新潟県へ提出
- ほか



▲市へ要望書を提出

5. 会員サービスに関する事業

会員同士の活発な異業種交流の促進や、会員企業の社員への福利厚生にも役立つ各種共済を扱っています。

- ・会員ゴルフ大会
 - ・新春賀詞交歓会
 - ・秋季経済講演会
 - ・各種共済事業
- ほか

▼会員ゴルフ大会



▲新春賀詞交歓会

6. 組織運営に関する事業

組織活性化のため、部会活動や女性会、青年部の活動を支援しています。

- ・業種ごとに8つの部会設置
 - ・議員総会、常議員会
 - ・各部会セミナー、視察研修会
 - ・女性会、青年部
- ほか

▼青年部 ソフトボール大会



▲女性会 小千谷ちぢみフェス

お気軽にお問合せ、お立ち寄りください。



小千谷商工会議所
中小企業相談所



〒947-8691 新潟県小千谷市本町2-1-5

TEL 0258-81-1300 FAX 0258-83-3632

E-MAIL mail@ojiyacci.org HP https://www.ojiyacci.org

小千谷商工会議所では**会員事業所**を募集しています

各種会員サービスや支援事業、異業種交流などで、商工会議所があなたの会社をサポートします！

入会に関するお問合せやご相談など、お気軽にお声がけください。

